

この街が 好きだから

みんなで手を携え、支え合い、ぬくもりのある街にしていきたい。
そんな思いを胸に、地域でグループで、いきいきと活動が続ける人たちがいます。

チゴハヤブサは「環境保全の指南役」 札幌チゴハヤブサの会

「チゴハヤブサは、全長が三十cmほどの猛きん類です。例年、札幌には五月ころ渡来し、カラスの巣を使って繁殖した後、雪が降る前に南へと旅立ちます」と熱っぽく語るのは、会長の工藤忠行さん。十三年來チゴハヤブサの研究を続けています。

毎年、雪解けとともに、会員同士の合言葉となるのが、「初チゴハヤ」はいつころか。今年も五月に入ると、六十人の会員は、昨年営巣を確認した十六カ所を中心にその渡来を待ち構えます。

平成八年に発足した会の主な活動は、市街地を中心とするチゴハヤブサの生息環境の調査と保全。近年は、生息地



地域住民を対象とした観察会の様子。右上はチゴハヤブサの親子

域での観察会の開催にも力を入れています。「チゴハヤブサは、地域の自然環境の豊かさを示す指標でもあります」と

工藤さんは話します。地域に根差した活動を展開する会にとつて、今年、新たな挑戦となるのが、市内の「子ども会」向けの観察会の開催。工藤さんは、「子供たちには、まず理屈抜きに鳥の魅力を感じてもらいたいですね。私自身も、勤務先近くの公園でチゴハヤブサの親子に一目ぼれしたのがきっかけで、環境保全という大きな問題を真剣に考えるようになったんですから」と笑顔を見せます。

百八十万以上の人口を抱えながら、札幌の街には都市機能と自然がバランス良く共存しているという工藤さん。長年の活動を通じて、そのバランスが少しずつ崩れてきているとも感じています。これからのまちづくりは、今ある自然を守るのが基本。チゴハヤブサがやって来る街を未来へ引き継いでいかなければ、工藤さんのまなざしは、次代を担う子供たちにもしつかりと向けられています。

わくわく

子育て通信

サポートセンターは子育て支援の新たな拠点です



子育てサポートセンター会員
あいこうちさこ
愛甲知佐子さん

息子の達也は、二歳四カ月。夫婦共に実家が遠いので、何かあった時のために、達也の預け先を身近に確保しておく必要がありました。ですから、昨年の五月、地域で子育てを支え合うサポートセンターの開設を知って、「これだ！」って思ったんです。

子供を安心して預けるには、預かる側の気持ちも知っておきたいと考え、両方の立場で登録しました。実際、一歳六カ月の女の子を預かる機会の方が先になったんですよ。やはり、自分の子供以上に気を使いましたが、普段は私と二人きりの達也にとつても、いい刺激になったようです。

託児サービスが一番大切なことは、子供にとつても親にとつても、安心感を持てるかどうかだと思います。託児所ではなく

一般家庭にわが子を預けるのですから、最初はお互いに不安なはず。その点、サポートセンターのスタッフは、会員間の信頼関係を築くことを第一に考えてくれるので心強いですね。

少子化に歯止めをかけるためにも、こうしたサービスの充実には欠かせないと思います。今後は、もっと会員の方が増えて、地域に有機的なネットワークを広げていくことができれば、子育て支援の中核になるのではないのでしょうか。(談)

さっぽろ子育てサポートセンター ☎272-2415

(中央区北1西9在宅福祉サービス協会内)

保育園・幼稚園などの送り迎えや保護者の都合による一時的な託児など、援助を受けたい人(依頼会員)と援助したい人(提供会員)とが会員登録し、会員相互で子育て家庭を支援する仕組みです。

利用時間は午前6時~午後10時。料金は、月曜~金曜の午前7時~午後7時は30分350円、それ以外の時間帯は400円です。

会員募集説明会については、24ページをご覧ください。